

No. 1356

新春二題

縁起絵馬展

愛知県・名古屋市の松坂屋では1980年の幸運を祈った「新春縁起絵馬展」が開かれました。絵馬は神に祈り、願い事をたてた時に馬を奉納していたのを板に描いて代りとした事に始まるといわれていますが、豊作、病気治ゆ、入試合格など、それぞれの時代の庶民たちの切実な願いがこめられています。絵馬師による絵馬即売コーナーでは注文に応じきれない売れ行き。自分で描いた方がききめがあるという訳ではありませんが、子供たちは自分たちで制作。「もっと成績があがりますように」などと祈りながら制作に余念がありませんでした。

歌川派の全貌展

東京・新宿の小田急グランドギャラリーでは肉筆浮世絵の華「歌川派の全貌展」(東京新聞主催)が開かれています。18世紀末、江戸の浮世絵界で活躍した歌川豊春。豊春は肉筆画で主として美人を描いていますが、その華麗な色彩による品格のある美人画は浮世絵師の絵画として屈指のものといわれています。この流派からは多くの弟子が出ましたが、中でも広重が有名です。「東海道五十三次」で画名を高めその人気は絶大でした。日本人の心に生まれた浮世絵の歴史は200年を越えた現在も脈々として生き続けています。

満100歳の出初め式

— 東京・晴海 —

新春例恒の東京消防庁出初め式が1月6日、東京晴海で行われました。「災害のない都市をめざして——、防災行動力を高めよう」をテーマに消防職員3,700人消防車81台のほか、ヘリコプター5機、消防艇3隻が参加しました。ことしは明治13年に江戸時代から続いてきた消防の仕組みが公設の機関に衣替えて以来満百年に当りこれを記念して明治、大正、昭和の消防クラシックカーのパレードも行われました。江戸消防記念会によって行われた木やり行進とはしご乗り。威勢のいい木やりの声とともにまといが寒空に舞い、はしご乗りの妙技が披露されました。続いて地震発生による火災を想定して都民参加の消火訓練やヘリコプターを使っの空陸一体の演習が行われました。東京都内だけでも昨年一年間に発生した火災は7,365件、焼死者は152名にのぼっています。まだまだ火災の発生する季節が続きます。火のもとには充分注意したいものです。